

# ハチ刺され特別警報

## 発令中!!

～7月から10月まではハチの活動が活発です～

全国でハチ刺されによる死亡者（労働者含む。）が毎年20人程度発生しています。スズメバチやアシナガバチ等に刺されたことによる**アナフィラキシーショックによる死亡者**が大半を占めます。

また、当署管内においても、草刈作業、伐木作業又は農作業等を行っている際に、ハチに刺されたことによる労働災害（不休災害含む。）が多発しています（年間数十件）。



刈払機による草刈作業等においては、黒い服等の着用、香水・整髪料の使用は避けることを徹底しましょう。

また、エピペン（アドレナリン製剤）の常備も検討してください。

ハチ刺され防止対策については、裏面「蜂刺され災害を防ごう！（林業・木材製造業労働災害防止協会）チラシ」を参考としてください。



西脇労働基準監督署

# 蜂刺され災害を防ごう!

—重篤なアレルギー反応のおそれのある作業者はエビペンを携行しましょう—

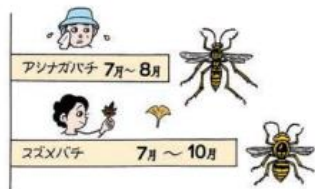
平成20年改正の林業・木材製造業労働災害防止規程では、蜂刺されのおそれのある場所で作業する場合は、あらかじめ蜂アレルギーの検査又は診察を受け、重篤なアレルギー反応を起こすおそれのある作業者は、アドレナリンの自己注射器（エビペン）を携行するよう努めることが決められました。

(表1)日本における蜂刺されの死者数等 (単位:人)

区分	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
蜂刺され死者数	12	11	13	15	20	21	18
林業従事死者数	0	0	0	0	0	2	0

出典:蜂刺され死者数は人口動態統計(厚生労働省)、林業従事死者数は林野庁調べによる。

◇ 刺す蜂の中で怖いのは、スズメバチとアシナガバチで、夏から秋がピークで危険です。



◇ 蜂の攻撃の特徴

- \* 巣に接近すると、警戒態勢をとり、威嚇する。
- \* 巣に刺激を加えると、攻撃してくる。

◇ 刺されたときの症状

(局所症状)

- \* 刺された所を中心にその周りに症状が出る。(大きく赤い腫れ、痛がゆい)

(全身症状)

- \* 刺された所だけでなく、体中に症状が出る。
  - ・ 即時に起こる全身症状 (刺された直後から)
    - 軽い、中ぐらい、重い、アナフィラキシーショックの症状があります。
    - アナフィラキシーショック (即時型アレルギー反応) は大変危険です。
  - ・ 遅れて起こる全身症状 (刺されてから翌日以降)



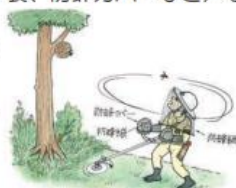
◇ 蜂に刺されないために

(巣の所在を知っている場合)

- \* 巣に近寄らない。
- \* 巣を刺激したり、震動を与えない。
- \* 巣の近くでは作業をしない。

(巣の所在を知らない場合)

- \* 適切な服装で作業をする。
- \* 防蜂網等 (防蜂手袋、防蜂カパーなど) を着用する。
- \* 蜂の殺虫剤スプレーを携行する。
- \* 適切な退避をする。



◇ 蜂の習性をよく知って対処 (衣服の色、身なり)

- \* 着衣に注意: 黒いものは身につけない。出来るだけ白色系にすること。
- 巣の近くで蜂を怒らせると色には無差別となる。



- \* 体の露出部 (腕、手、顔) と動きのある部位が刺されやすい。
- \* においも蜂を刺激し、攻撃の対象となる。ヘアトニック、香水等の化粧品、体臭、汗臭さ等
- \* 蚊よけの超音波発信器も蜂を興奮させて、攻撃を受けることがある。

◇ 刺されたときの処置

- \* 刺された現場から離れ、速やかに毒吸引器等で毒を絞り出す。



- \* 毒の周りを運くするため、患部を冷水で冷やす。



- \* 刺されたところに、抗ヒスタミン軟膏を塗る。抗ヒスタミン錠剤の処方を受けている人は、服用する。
- \* 発疹、咳、目がくらむなどの症状が出たら、速やかに医療機関に運ぶ。
- \* アナフィラキシーの徴候や症状を感じたときは、エビペンを注射する。



- \* 患者を移送するときは、担架で救急車まで運ぶ。自力歩行させたり、背負ったりしない。



エビペンの必要な人は携行するようにしましょう。

- \* エビペンの使用には、しかるべき医師の診察とその処方が必要です。
- \* 林業の作業現場では、救急車が到達するのに多くの時間を要します。
- \* 危険な状態になることが見込まれる作業者は、刺されて危険な状態になった場合に、直に対処出来るよう、エビペンを携行しましょう。

